



北の湖理事長 辞任

大麻問題で引責

相撲協会 緊急理事会 任期途中は初

日本相撲協会の北の湖理事長(55)＝元横綱、本名・小畑敏満＝が一連の大麻問題の責任を取って八日の緊急理事会で辞任した。関係筋が明らかにした。同協会によると、理事長が任期途中で引責辞任するのは初めて。

尿検査で大麻に陽性反応を示したロシア出身の幕内、露鵬(28)と十両、白露山(26)のうち、白露山が北の湖部屋の所属で、理事長の引責は避けられない情勢だった。現役時代は優勝24回を誇る大横綱だった北の湖

理事長は二〇〇二年から現職に就き、今年初場所後の役員改選で4選を果たした。しかし昨年は力士死亡事件や横綱、朝青龍のサッカー騒動が発生。先月には元幕内、若ノ鵬が大麻所持容疑で逮捕、解雇されるなど前代

未聞の不祥事が相次ぎ、協会トップとしての責任が問われ続けていた。露鵬、白露山の両力士が大麻に陽性反応を示した問題で、北の湖理事長

不信深まり ついに決断

(元横綱)がついに辞任を決断した。

理事長は陽性反応発覚後から「二人は絶対にやっけないと言っているんだから、すぐに結論は出さない」と言い続けてきた。しかし専門機関による精密検査でも陽性反応が出た。役員以外の親方による臨時の「年寄総会」では辞任を要求する声も上がり、他の理事からの不信感も深まる一方だった。



日本相撲協会の理事会が休憩に入り、会議室から出た北の湖理事長＝8日午後0時43分、東京・両国国技館

決定的だったのは、理事長が白露山の師匠だったこと。昨年の朝青龍騒動から時津風部屋の力士死亡事件、今年八月に大麻所持容疑で逮捕された元幕内、若ノ鵬を解雇した時も一貫して「師匠と弟子の問題」とし、自身の責任には触れなかった。だが今回は逃れようのない事実を突き付けられ、4期目に入った職を去ることを決めた。